

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01339

研究課題名(和文)畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解

研究課題名(英文) A new understanding of formation process of the Yamato government based on the clarification of inter-regional relations in the Kinai region

研究代表者

福永 伸哉 (FUKUNAGA, Shinya)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：50189958

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ヤマト政権成立過程の2世紀～3世紀中頃(弥生後期、弥生終末期、古墳前期)における畿内内部の地域関係の推移を検討し、大和・摂津地域では、弥生終末期以降に、三角縁神獣鏡の急増、円丘系墳墓築造の活発化、布留式土器の普及などの点で同一歩調が生まれるのに対して、河内地域では三角縁神獣鏡の少なさ、方丘系墳墓の強い伝統、庄内式土器への固執など、対照的なあり方が見られることを明らかにした。このことから、弥生後期までの大和・河内の連携から、弥生終末期以降は大和・摂津の連携へと地域関係が変化し、これが古墳時代のヤマト政権内部の主導権争いにもつながったという新たな理解を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、ヤマト政権成立過程に当たる弥生後期～終末期に焦点を当てた畿内諸勢力の関係を検討する研究はほとんどなかった。これに対して、本研究では大和・河内・摂津の間の政治的親疎の関係が当該期に劇的に変動したとの理解を提示し、これが古墳時代ヤマト政権の「勢力交替」の動きの前提になったのではないかとの見通しを示した。ヤマト政権の権力構造の推移を政権成立前史に遡ってダイナミックにとらえることによって、新たな古墳時代史の理解が可能になると期待される。また、フィールド調査を実施した宝塚市八州嶺古墳は猪名川流域最大の方後円墳であることが判明し、地域の文化財保護行政に有効に活用できる情報を提供できた。

研究成果の概要(英文)：This research examines the changes in regional relations within the Kinai region during the formative period of the Yamato government, between the 2nd and the middle of the 3rd century (Late Yayoi, Final Yayoi, Early Kofun). In contrast to the rapid increase in triangular-rimmed deity-beast mirrors, the active construction of circular-style mounded tombs, and the spread of Furu-type pottery in both Yamato and Settsu regions, in the Kawachi region the scarcity of triangular-rimmed mirrors, the strong tradition of square-style burial mounds, and the adherence to Shonai-type pottery are seen. For this reason, we presented a new understanding that regional relations changed from alliance between Yamato and Kawachi in the late Yayoi period to alliance between Yamato and Settsu after the final Yayoi period. Furthermore, we presumed that this situation led to a power struggle within the Yamato government in the Kofun period.

研究分野：考古学

キーワード：ヤマト政権 畿内地域 墳丘墓 古墳 八州嶺古墳

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

「古墳の発生」が、ヤマト政権の成立及び政権と地方首長との政治的関係の形成を物語る現象であることを明確に指摘したのは、小林行雄の学史的論文「古墳の発生の歴史的意義」(1955年)であった。小林の提起を契機として、ヤマト政権の地域浸透過程を解明する考古学的アプローチは活発になり、今日各地の遺跡調査成果の集積は、古墳時代社会政治史の総括的な像を展望できるまでに豊かになった。

古墳時代ヤマト政権が「畿内政権」と別称されるように、この時代の地域関係が畿内勢力による列島の地域把握の進展という形で推移することは、ほぼ研究者間で合意を見ているといえる。さらに近年では、そうした成果に基づいて日本の古代国家形成論を高いレベルで論じることが可能となっており、これらの到達点は、本研究代表者の福永が編者の一人となった『古墳時代の考古学』(全10巻、2012~2014年)で俯瞰することができる。

しかしながら、ではそのヤマト政権とは、畿内内部のどのような地域力学の動きの中で成立したのか。「畿内政権」と列島各地との関係が明らかになる一方で、その畿内内部に分け入って政権の成立過程と内部の勢力構造を探る試みは、新たな資料の蓄積に見合ったレベルでの考察の取り組みがみられない状態で今日に至っているといわざるをえない。

こうした現状認識に立った本研究の核心をなす「問い」は、古墳時代史のマクロな視点からは「畿内政権」と一括されるヤマト政権が、内部にいかなる地域関係と構造を持って成立するに至ったのか、そしてなぜそうしたプロセスが生起することになったのかという2点である。これらの「問い」を解決することにより、ヤマト政権の内部構造とヤマト政権による列島の地域把握に関する研究を同等の精度で結合させ、この時代の社会政治関係の総合的な理解を大きく深化させることができると考える。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は以下の二つである。第一は、後に「畿内」と呼ばれる地域における弥生後期~古墳前期の墳丘墓・古墳・集落・青銅器の分布・構造・時期的推移などを詳細に分析することによって、本格的な検討が乏しかった該期の畿内内部の地域関係を解明し、諸地域間の親疎関係の変動を見据えたダイナミックなヤマト政権成立過程とその政権構造の新理解を提起することである。この研究の柱をなす作業として、考察の重要な鍵を握る畿内北部、猪名川流域のフィールド調査を実施し、立論の根拠となるケーススタディを提示する。

第二は、該期の畿内地域の墳丘墓・古墳・集落のネットワークを、情報工学研究者の参画を得て、地形及び三次元位置情報の観点から分析し、そのネットワーク変動とヤマト政権成立史の相関関係を解明するとともに、これを近年世界的に活発になっている「景観考古学」の日本における研究成果として国際的に発信することである。

### 3. 研究の方法

上述の目的を達成するために、(1)弥生時代~古墳時代移行期の畿内諸資料の型式と分布の検討、(2)長尾山丘陵フィールドプロジェクト、(3)ヤマト政権成立過程における畿内地域関係の解明、(4)古墳・集落ネットワークの景観考古学的分析の4研究テーマを設定し、各々の検討・解明にあたる。研究活動は、研究代表者を中心に調査研究・フィールドワークを進め、併行して組織内の定期的な研究ミーティング及び国内外の学会発表・論文執筆等で成果を討論・発表する方式と、兵庫県東南部の長尾山丘陵における古墳のフィールド調査を組み合わせる。そして、最終年度には、研究作業をふまえたヤマト政権成立史の新理解とフィールド調査の成果を収載した総括報告書を刊行する。

### 4. 研究成果

#### (1) 弥生時代~古墳時代移行期の畿内諸資料の型式と分布の検討

畿内主要地域(大和・河内・摂津)における弥生後期から古墳前期までを対象に、突線鈕式銅鐸、画文帯神獸鏡・三角縁神獸鏡、墳丘墓・前期古墳、庄内式土器・布留式土器の諸型式の分布を検討し、以下の状況を明らかにした。弥生後期の突線鈕式銅鐸は、畿内南部よりも北部の摂津(淀川・猪名川水系)に多く分布することから、突線鈕式銅鐸が畿内の政治的連合のシンボルだったと見る立場から、弥生後期の畿内北部の摂津勢力が連合主流派としての「存在感」を持っていたと解釈した。弥生終末期に流入した画文帯神獸鏡は大和・河内に多く、摂津には少ないが、古墳初頭の古相三角縁神獸鏡になると河内への流入が停滞するのに対して、大和・摂津で急増する。弥生終末期の墳丘墓は、円丘系の摂津、方丘系の河内という対照的な様相を呈し、大和は方

丘系の伝統を持っていたが終末期新相段階で摂津と同じ円丘系の採用に舵を切った。その後の前期古墳は大和に王陵が出現し、摂津でも墳長 100m 長の大型前方後円墳が築かれるのに対して、河内では前方後円墳の築造が遅れる現象が認められる。またこの時期の土器については従来、弥生終末期の庄内式土器から古墳前期の布留式土器への順当な型式変化が考えられていたが、河内では古墳時代になって大和・摂津で布留式土器が普及した後も、しばらく庄内式土器を使い続けており、庄内式と布留式の間には型的な不整合が存在する。

## (2) 長尾山丘陵フィールドプロジェクト

摂津猪名川流域の長尾山丘陵において、前期古墳の築造状況を測量・発掘調査、出土埴輪の整理分析によって解明する計画であったが、初年度から新型コロナウイルス感染拡大によって作業の中断を余儀なくされた。補助金の繰越等によって対応し、辛うじて 2022 年 9 月までに最低限の現地調査と出土資料の整理を行うことができた。中心的な作業であった宝塚市八州嶺古墳の発掘調査では、古墳裾部のトレンチ調査によって、墳丘長 78m をはかる猪名川流域では最大の前方後円墳であることが推定され、築造時期も前期中葉の範囲に収まる古式古墳と判明した。併行して行った宝塚市万籟山古墳出土埴輪の整理分析、宝塚市長尾山古墳・川西市小戸遺跡出土埴輪との比較検討の成果を加味した結果、長尾山丘陵には前期中葉までの短期間に、円筒埴輪を樹立する前期古墳が 4 基も集中すると結論を得た。このことは、古墳時代前期にはヤマト政権中枢の大和勢力と畿内北部の勢力がとくに強い政治的連携を有していたことを示すものである。

## (3) ヤマト政権成立過程における畿内地域関係の解明

青銅器、墳墓、土器の分析と長尾山丘陵フィールド調査の成果を総括すると、ヤマト政権成立過程において、畿内地域内部では大和盆地勢力を核にして、大和・河内の連携から大和・摂津の連携へと地域内の連衡関係が急速に変化した状況をうかがうことができる。その変化が進展した時期は、三角縁神獣鏡の分配が始まる弥生時代最終末の 240 年代頃と推定される。この時期に連携を深めた大和・摂津地域では、順調に大型前方後円墳を築いて初期ヤマト政権の主流派を構成していくのに対して、河内地域では前方後円墳の築造が一段階遅れ、政権の非主流派的な立場に転じていく。ヤマト政権成立過程で生じた大和・摂津 VS. 河内という畿内地域の勢力区分は、その後古墳時代中期になると主従の立場を逆転させて、政権の主導権交替と見るべき状況へとふたたび変化していく。このように、外部からは一つの中央政権としてのまとまりが見えるヤマト政権においても、その内部に立ち入れれば畿内諸勢力の親疎の関係が変転しながら古墳時代史が形づくられていることがわかる。本研究においては、そのダイナミックな政治変動の出発点がヤマト政権形成過程の弥生終末期頃存在するとの新たな理解を提示した。

## (4) 古墳・集落ネットワークの景観考古学的分析

上述のフィールド調査の対象となった長尾山丘陵において、ヤマト政権初期段階の前期古墳が集中する背景に、猪名川を遡って日本海側へとつながる南北ルートの地政学的重要性があるのではないかと仮説をたて、地理情報や古墳・集落情報を総合して、可能性のある南北ルートを復元した。これによると長尾山丘陵付近は、大和盆地から淀川水系を経て大阪平野北西部に至り、さらに中国山地を抜けて日本海側に通じる南北ルートの門戸に当たる要衝を占めることが推定できた(図 1)。中国王朝との通交を重視したヤマト政権初期段階の外交戦略が、大和・摂津の強い連携の一因になっている可能性が考えられる。なお、期間中に計画していた国際学会での成果発表については、2020 年 9 月にスロベニアで開催予定であった第 3 回欧州アジア美術考古学会でのセッションを申請し、審査を受けて受理されていたが、コロナ禍により延期となり、あらためて 2023 年に発表する予定になった。

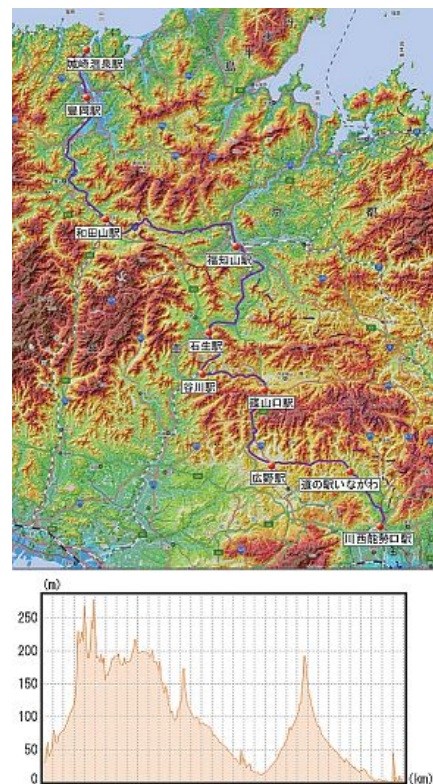


図 1 ルート案の検討

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中久保辰夫	4. 巻 -
2. 論文標題 近畿北部における古式土師器の展開とその背景	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解	6. 最初と最後の頁 21-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中久保辰夫	4. 巻 74巻
2. 論文標題 近畿地域の古代百済系（韓系）移住民の研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 百済研究	6. 最初と最後の頁 81-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林理恵子	4. 巻 -
2. 論文標題 畿内北部の主要遺跡分布と地形情報	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解	6. 最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 門林 理恵子, 森 善龍	4. 巻 -
2. 論文標題 ARアプリによる遺物鑑賞の拡張の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文化財科学会第38回大会研究発表要旨集	6. 最初と最後の頁 264-265
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 -
2. 論文標題 淀川流域における古墳時代前半期葬制の展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解	6. 最初と最後の頁 5-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 第32集
2. 論文標題 竪穴式石室における隅部処理様相の基礎的検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代吉備	6. 最初と最後の頁 26-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 -
2. 論文標題 ヤマト政権成立過程における畿内の地域間関係	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解	6. 最初と最後の頁 41-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 第10号
2. 論文標題 ヤマト政権成立期における畿内地域の円丘墓と方丘墓	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 纏向学研究	6. 最初と最後の頁 357-366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 42号
2. 論文標題 ヤマト政権の誕生と三角縁神獣鏡	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大分県立歴史博物館紀要	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 72-2
2. 論文標題 世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 96-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 -
2. 論文標題 近畿中部における弥生時代木棺の型式と展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 柳本照男さん古稀記念論集 - 忘年之交の考古学 -	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 -
2. 論文標題 大垣市東町田墳墓群からの着想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 昼飯の丘に集う - 中井正幸さん還暦記念論集 -	6. 最初と最後の頁 161-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中久保辰夫	4. 巻 342
2. 論文標題 考古学からみた播磨の渡来人と秦氏	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史と神戸	6. 最初と最後の頁 14-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中久保辰夫	4. 巻 -
2. 論文標題 待兼山古墳群と猪名川流域の渡来系集団	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 柳本照男さん古稀記念論集 - 忘年之交の考古学 -	6. 最初と最後の頁 111-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中久保辰夫	4. 巻 227
2. 論文標題 須恵器生産と地域社会の展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代学研究	6. 最初と最後の頁 20-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 387
2. 論文標題 墳墓構造からみた摂津前期古墳の特質	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 つどい	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻
2. 論文標題 如意谷銅鐸の評価をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史・民俗・考古学論攷	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 別冊28
2. 論文標題 近畿弥生社会における銅鐸の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 -
2. 論文標題 三角縁神獸鏡の伝世現象と出土古墳の性格	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古墳と国家形成期の諸問題 - 白石太一郎先生傘寿記念論文集	6. 最初と最後の頁 384-388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 675
2. 論文標題 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊文化財	6. 最初と最後の頁 11-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 -
2. 論文標題 国の成り立ちと史跡城の山古墳	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史跡城の山古墳国指定記念講演会記録集	6. 最初と最後の頁 20-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋照彦	4. 巻 別冊30
2. 論文標題 賤機山古墳の被葬者像と駿河の地域支配	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊考古学	6. 最初と最後の頁 110-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中久保辰夫	4. 巻 217
2. 論文標題 百済・栄山江流域と倭の相互交流とその歴史的展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 115-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中久保辰夫	4. 巻 -
2. 論文標題 須恵器生産と地域社会の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古代学研究会2019年度拡大例会・シンポジウム資料集	6. 最初と最後の頁 49-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 -
2. 論文標題 常陸鏡塚古墳の粘土槨について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 常陸鏡塚 大洗町第3回埋蔵文化財企画展シンポジウム資料集	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 223
2. 論文標題 前期首長墓の系列展開と埋葬施設構造の変遷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代学研究	6. 最初と最後の頁 15-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 66-3
2. 論文標題 書評・岡林孝著作『古墳時代棺槨の構造と系譜』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 118-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 善龍・門林 理恵子	4. 巻 2020-EC-55, No.1
2. 論文標題 イベント利用を想定した古墳体験VRのUIの試作	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 情報処理学会情報処理学会研究会報告	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 中久保辰夫
2. 発表標題 東播東部地域の中期古墳と出土品の再整理報告
3. 学会等名 第22回播磨考古学研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中久保辰夫
2. 発表標題 杣之内古墳群と布留遺跡からみた物部氏
3. 学会等名 天理参考館第87回企画展記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋照彦
2. 発表標題 武寧王陵と朝鮮半島の前方後円墳
3. 学会等名 懷徳堂記念会古典講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 福永伸哉
2. 発表標題 王陵交流の考古学
3. 学会等名 韓国忠南大学校公開講座＜王陵の比較研究＞（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福永伸哉
2. 発表標題 百舌鳥・古市古墳群 - その実像と歴史に迫る -
3. 学会等名 土木学会関西支部2020FCCフォーラム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中久保辰夫
2. 発表標題 古代百済系（韓系）移住民の研究 国家、地域間の交流
3. 学会等名 2020忠南大学百済研究所国際学術大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上田直弥
2. 発表標題 考古学で”権力”はどこまで掘れるか 古墳時代石製品を中心に
3. 学会等名 第2回「考古学」大勉強会 行為と構造
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 定松佳重・和田晴吾・難波洋三・森岡秀人・福永伸哉・吉田 広
2. 発表標題 兵庫県南あわじ市松帆銅鐸の調査成果について
3. 学会等名 日本考古学協会第85回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福永伸哉
2. 発表標題 王陵考古学の比較研究 - 日本の王陵を中心に
3. 学会等名 韓国忠南大学校百濟研究所特別講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中久保辰夫
2. 発表標題 口吉川・黄金塚古墳の被葬者像 古墳から中央と地域の政治史をよむ
3. 学会等名 みき歴史資料館企画展「細川・口吉川の遺跡」特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中久保辰夫
2. 発表標題 世界の墳墓と世界遺産
3. 学会等名 「陵墓限定公開」40周年記念シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中久保辰夫
2. 発表標題 須恵器大甕の容量と酒造
3. 学会等名 考古学研究会関西例会第221回例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 福永伸哉, 上田直弥(編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学人文学研究科	5. 総ページ数 144
3. 書名 畿内の地域間関係の解明に基づくヤマト政権成立史の新理解	

1. 著者名 中久保辰夫ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 216
3. 書名 文化財としての「陵墓」と世界遺産	

1. 著者名 松木武彦・福永伸哉・佐々木憲一(共編著)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 280
3. 書名 日本の古墳はなぜ巨大なのか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 照彦  (TAKAHASHI Teruhiko)  (10249906)	大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、 日本学専攻)・教授   (14401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上田 直弥 (UEDA Naoya) (70823780)	大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、 日本学専攻）・助教  (14401)	
研究分担者	中久保 辰夫 (NAKAKUBO Tatsuo) (30609483)	京都橘大学・文学部・准教授  (34309)	
研究分担者	門林 理恵子 (KADOBAYASHI Rieko) (70358886)	大阪電気通信大学・総合情報学部・教授  (34412)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関